

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第3回）

＜気仙ブロック＞

日時：令和元年8月9日（金）

13:30～15:30

会場：大船渡地区合同庁舎

4階 大会議室

【次 第】

- 1 開会
- 2 県教育委員会挨拶
- 3 気仙ブロックの状況について
- 4 後期計画策定に向けた意見交換
 - ◆ テーマ
各地域における学校・学科の配置について
- 5 その他
- 6 閉会

■ 後期計画策定に向けた意見交換（気仙ブロック）

[後期計画における高校教育の目指す方向性（案）]

- ・ AI や IoT 等の急速な技術革新の進展による教育環境の変化や学習指導要領の改訂等、高校教育を取り巻く現状を踏まえ、望ましい学校規模の確保による「教育の質の保証」と本県の地理的状況等を踏まえた「教育の機会の保障」を大きな柱とした高校再編を進めながら、新時代に対応した「社会を創造する人づくり」の実現を目指す。

[テーマ]

各地域における学校、学科の配置について

(1) 気仙ブロックの現状

- ・ 全日制課程については、県立高校は普通高校 3 校（専門学科併置校 1 校を含む）、専門高校 1 校（総合的な専門高校）の 4 校設置しています。
- ・ 定時制課程については、夜間定時制課程を大船渡高校に併設しています。

(2) 気仙ブロックの課題等

- これまでの地域検討会議において、学科等に関する意見としては、「特に普通科においては、学校ごとに学びに特色を持たせるなど、学校の魅力づくりに取り組むことが必要」や「専門学科においては、地域産業界と直結した学びが必要」等がありました。
- 平成 30 年度に実施した中学生アンケートにおいて、普通科系希望者の割合が 71.7% と高く（県平均 63.7%）、設置学科の状況を上回っています。また、農業科、商業科、工業科希望者の割合が、前回（H27 年度実施）と比較して増加しています。
- 平成 31 年度入試における、気仙ブロックの定員充足率は 75.7%（県平均 85.1%）で、4 校中 3 校で欠員が生じています。
- ブロック間の交流について、過去 3 年間（H29～31 年度）の平均を見ると、他のブロック等から転入した生徒が 9.0 人、他のブロック等へ転出した生徒が 45.7 人となっており、他のブロック等への転出が 36.7 人上回っています。
- 平成 31 年 3 月の中学校卒業生数は 499 人で、後期計画最終年の令和 7 年 3 月の中学校卒業予定者数は 421 人（15.6% 減）、令和 15 年 3 月には、330 人（33.9% 減）となる見込みです。今後、中学校卒業生数の減少により、各校の入学者が減少するものと見込まれ、学校規模が縮小していくものと予想されます。

(3) 議論の方向性

- 現状を踏まえ、今後、気仙ブロックにおける必要な学校・学科について、御意見を伺います。
- 中学校卒業生数については、後期計画終了後もさらに減少していくことが見込まれる中、可能な限り現在の学校を維持する観点から、学級数の調整で対応する考え方と、学校の活力向上の観点から、学校統合で対応する考え方があります。これらの考え方について、気仙ブロックの現状を踏まえた具体的な御意見を伺います。

[気仙ブロックの状況について]

1 中学校卒業者の推移（県内ブロックごと）

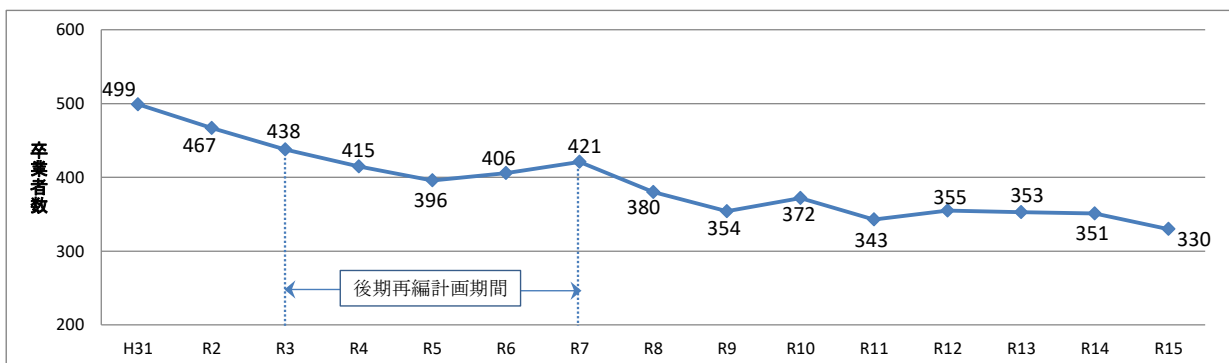
	中段：対前年比 下段：対H31年比														
	H31. 3	R2. 3	R3. 3	R4. 3	R5. 3	R6. 3	R7. 3	R8. 3	R9. 3	R10. 3	R11. 3	R12. 3	R13. 3	R14. 3	R15. 3
盛岡	4,263	4,175	3,901	4,189	4,023	3,997	4,000	3,964	3,803	3,749	3,517	3,427	3,487	3,479	3,307
		-88	-274	288	-166	-26	3	-36	-161	-54	-232	-90	60	-8	-172
		-88	-362	-74	-240	-266	-263	-299	-460	-514	-746	-836	-776	-784	-956
岩手	1,879	1,754	1,690	1,669	1,667	1,736	1,601	1,586	1,504	1,483	1,462	1,414	1,366	1,353	1,297
中		-125	-64	-21	-2	69	-135	-15	-82	-21	-21	-48	-48	-13	-56
		-125	-189	-210	-212	-143	-278	-293	-375	-396	-417	-465	-513	-526	-582
胆江	1,166	1,174	1,045	1,117	1,117	1,091	1,018	1,067	1,043	971	944	914	914	897	861
		8	-129	72	0	-26	-73	49	-24	-72	-27	-30	0	-17	-36
		8	-121	-49	-49	-75	-148	-99	-123	-195	-222	-252	-252	-269	-305
両磐	1,164	1,084	1,075	1,057	999	997	958	929	872	847	829	787	753	733	694
		-80	-9	-18	-58	-2	-39	-29	-57	-25	-18	-42	-34	-20	-39
		-80	-89	-107	-165	-167	-206	-235	-292	-317	-335	-377	-411	-431	-470
気仙	499	467	438	415	396	406	421	380	354	372	343	355	353	351	330
		-32	-29	-23	-19	10	15	-41	-26	18	-29	12	-2	-2	-21
		-32	-61	-84	-103	-93	-78	-119	-145	-127	-156	-144	-146	-148	-169
釜石・遠野	572	527	519	532	522	483	508	454	466	504	465	448	433	412	409
		-45	-8	13	-10	-39	25	-54	12	38	-39	-17	-15	-21	-3
		-45	-53	-40	-50	-89	-64	-118	-106	-68	-107	-124	-139	-160	-163
宮古	652	574	580	553	621	574	511	498	549	538	495	478	507	504	475
		-78	6	-27	68	-47	-63	-13	51	-11	-43	-17	29	-3	-29
		-78	-72	-99	-31	-78	-141	-154	-103	-114	-157	-174	-145	-148	-177
久慈	509	504	449	456	474	427	461	427	422	410	408	382	353	346	326
		-5	-55	7	18	-47	34	-34	-5	-12	-2	-26	-29	-7	-20
		-5	-60	-53	-35	-82	-48	-82	-87	-99	-101	-127	-156	-163	-183
二戸	430	419	398	416	386	351	371	355	349	359	329	289	280	279	273
		-11	-21	18	-30	-35	20	-16	-6	10	-30	-40	-9	-1	-6
		-11	-32	-14	-44	-79	-59	-75	-81	-71	-101	-141	-150	-151	-157
全県	11,134	10,678	10,095	10,404	10,205	10,062	9,849	9,660	9,362	9,233	8,792	8,494	8,446	8,354	7,972
		-456	-583	309	-199	-143	-213	-189	-298	-129	-441	-298	-48	-92	-382
		-456	-1,039	-730	-929	-1,072	-1,285	-1,474	-1,772	-1,901	-2,342	-2,640	-2,688	-2,780	-3,162

卒業生 現中3 中2 中1 小6 小5 小4 小3 小2 小1

2 中学校卒業者の推移（気仙ブロック内の市町村ごと）

	中段：対前年比 下段：対H31年比														
	H31. 3	R2. 3	R3. 3	R4. 3	R5. 3	R6. 3	R7. 3	R8. 3	R9. 3	R10. 3	R11. 3	R12. 3	R13. 3	R14. 3	R15. 3
気仙	499	467	438	415	396	406	421	380	354	372	343	355	353	351	330
		-32	-29	-23	-19	10	15	-41	-26	18	-29	12	-2	-2	-21
		-32	-61	-84	-103	-93	-78	-119	-145	-127	-156	-144	-146	-148	-169
大船渡市	289	284	257	262	248	249	246	247	229	241	223	238	227	228	215
		-5	-27	5	-14	1	-3	1	-18	12	-18	15	-11	1	-13
		-5	-32	-27	-41	-40	-43	-42	-60	-48	-66	-51	-62	-61	-74
陸前高田市	173	149	136	131	117	122	140	105	101	112	97	93	102	101	94
		-24	-13	-5	-14	5	18	-35	-4	11	-15	-4	9	-1	-7
		-24	-37	-42	-56	-51	-33	-68	-72	-61	-76	-80	-71	-72	-79
住田町	37	34	45	22	31	35	35	28	24	19	23	24	24	22	21
		-3	11	-23	9	4	0	-7	-4	-5	4	1	0	-2	-1
		-3	8	-15	-6	-2	-2	-9	-13	-18	-14	-13	-13	-15	-16

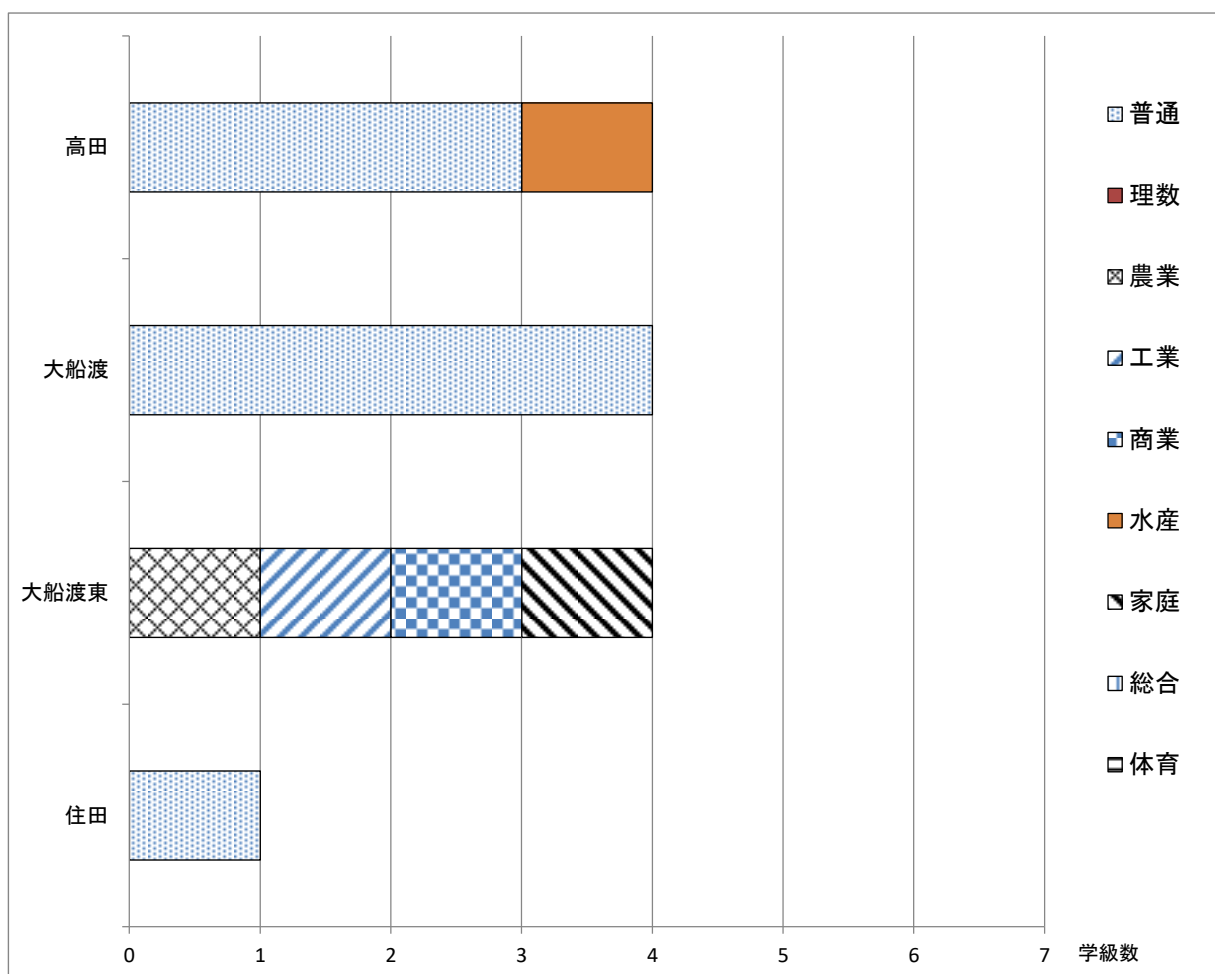
卒業生 現中3 中2 中1 小6 小5 小4 小3 小2 小1



3 公立高校の設置学科及び学級数の状況（令和2年度）

学校名	学科	定員	学級数	設置学科（定員）
高 田	普・水	160	4	普通科(120)、【水産】海洋システム科(40)
大 船 渡	普	160	4	普通科(160)
大船渡東	農・工 商・家	160	4	【農業】農芸科学科(40)、【工業】機械電気科(40)、【商業】情報処理科(40) 【家庭】食物文化(40)
住 田	普	40	1	普通科(40)

520 13



学科	普通	理数	農業	工業	商業	水産	家庭	総合	体育	計
学級数	8	0	1	1	1	1	1	0	0	13
定員	320	0	40	40	40	40	40	0	0	520

県立高校の教育課程の形態

◆ 普通高校

普通教育を主とする普通科高校。(学級単位で専門科目を学べるコースを設けている学校もある。)《盛岡第一高校、盛岡第二高校 等》

◆ 総合選択制高校

普通科にいくつかの「学系」を設け、生徒が自分の興味・関心、進路希望に応じて各学系に入学し学習するとともに、必要に応じて他の学系の教科・科目も選択できるなど幅広く学習できる普通高校。

《不来方高校、花巻南高校》

◆ 総合学科高校

進路に応じる複数の「系列」があり、2年次から「系列」や普通教科と専門教科のどちらも選択でき、総合的に学ぶことができる単位制高校。

《紫波総合高校、北上翔南高校、岩谷堂高校、一関第二高校、久慈東高校、一戸高校》

◆ 専門高校

農業、工業、商業、水産、家庭等の専門教科を主として学ぶ専門学科高校。

《盛岡農業高校、盛岡工業高校 等》

◆ 総合的な専門高校

複数の専門学科を併設し、所属する学科の科目以外に、関連する他の専門分野の教科・科目を併せて履修することができる専門高校。

《花北青雲高校、大船渡東高校、釜石商工高校》

◆ 定時制課程・通信制課程

定時制課程は、夜間又は特別な時間帯等に授業を行なう課程。通信制課程は、通信の方法により高校教育を行う課程。

《宮古高校定時制課程、杜陵高校通信制課程 等》

◆ 多部制・単位制高校

特定の時間帯で授業を行なう課程(部)を複数組み合わせ設置し、生徒がいずれかの時間帯に所属して学ぶことができる単位制の定時制高校。

《杜陵高校、杜陵高校奥州校、久慈高校長内校》

◆ 中高一貫教育校

中学校と高校の課程を調整し、一貫性を持たせた体系的な教育方式を行っている学校。

《併設型：一関第一高校附属中学校》

《連携型：葛巻地区、軽米地区》

<教育課程の形態等(例)>

普通高校	必修		選択
	普通教科・科目		芸術 等

* 普通科、理数科、体育科を含む。 ※コース制は、必修に特定の専門科目が含まれる。

総合選択制高校	学系	必修		選択		
		共通	学系内	学系内	自由	
	人文理数	普通教科・科目	普通教科・科目	専門科目	他の学系の科目、普通専門科目	
	芸術	〃	〃	〃		
	外国語	〃	〃	〃		
体育	〃	〃	〃			

総合学科高校	系列例	必修		選択	
		普通教科・科目	系列選択科目	自由選択科目	
	人文科学	普通教科・科目 原則履修 産業社会と人間	人文→地理A 等	倫理	他多数
	自然科学		自然→数学Ⅲ 等	スポーツ	
	生活・福祉		生活→服飾手芸 等	ビジュアルデザイン	
情報・経済	情報→簿記 等		音楽理論		
環境緑化	環境→草花 等		生活の書		
海洋科学	海洋→漁船運用 等				

専門高校	必修		選択
	普通教科・科目	専門科目	専門科目・芸術 等

総合的な専門高校	学科	必修		選択	
	農業	普通教科・科目	農業科目	他分野の専門科目	芸術 等
	工業		工業科目		
	商業		商業科目		

定時制課程	(夜間又は特別な時間帯等に授業)	夜間
		17時～21時

※ 時間帯を長くして、科目を多く設定し、履修させることにより3年で卒業可能な学校がある。

通信制課程	レポート(自宅学習)主体、スクーリング(面接指導)、試験で単位取得
-------	-----------------------------------

多部制・単位制高校	午前部	午後部	夜間部
	9時～13時	13時～17時	17時～21時

※ 特定の時間帯を複数設置、単位制で生徒個々に時間割を決められる。

※ 所属する部以外の部の科目を履修することで、3年で卒業も可能。

併設型中高一貫教育校	(選抜)	中学校	(無選抜)	高等学校
------------	------	-----	-------	------

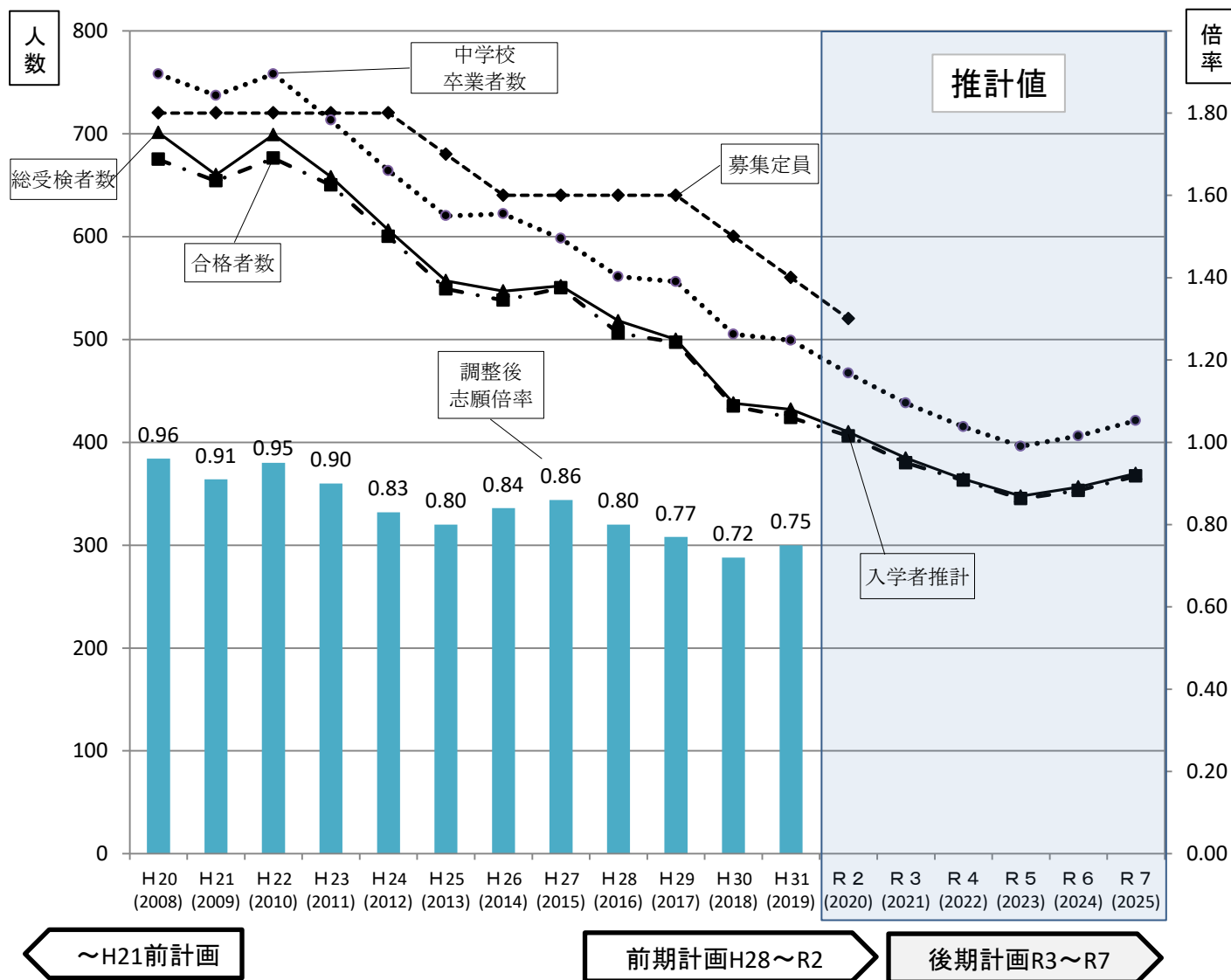
※ 中学校の設置形態の違いにより、同一学校型(中等教育学校)、併設型、連携型の3種類がある。

県立高校(全日制)の入試状況の推移(気仙ブロック)

年 度	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)
中学校 卒業生数	758	737	758	713	664	620	622	598	561	556	505	499	467	438	415	396	406	421
募集定員	720	720	720	720	720	680	640	640	640	640	600	560	520	—	—	—	—	—
合格者数 (入学者推計)	675	654	676	650	600	549	538	550	506	497	435	424	406	380	363	345	353	367
総受検者数	701	660	699	658	606	557	547	552	518	500	438	432	410	385	364	348	356	370
欠 員	▲45	▲66	▲44	▲70	▲120	▲131	▲102	▲90	▲134	▲143	▲165	▲136	—	—	—	—	—	—
調整後 志願倍率	0.96	0.91	0.95	0.90	0.83	0.80	0.84	0.86	0.80	0.77	0.72	0.75	—	—	—	—	—	—

※令和2年度以降の入学者推計はH29～31年度の3年間の進学率を基にした推計値

※令和2年度以降の総受検者数はH29～31年度の(総受検者数/中学校卒業生数)の平均値0.878を中学校卒業生数にかけた値

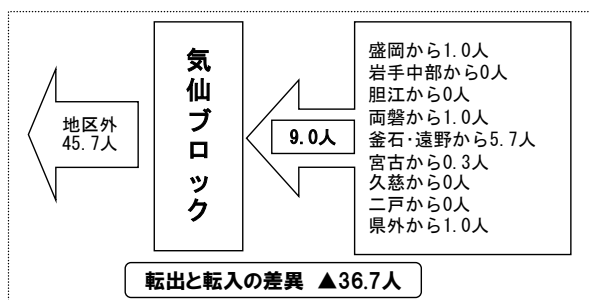
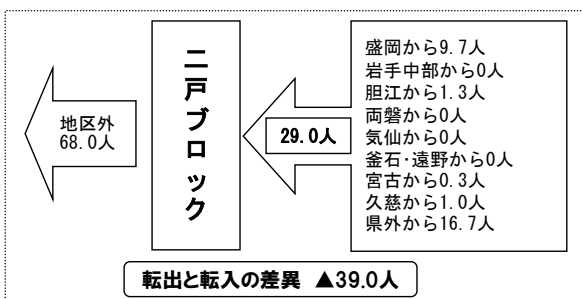
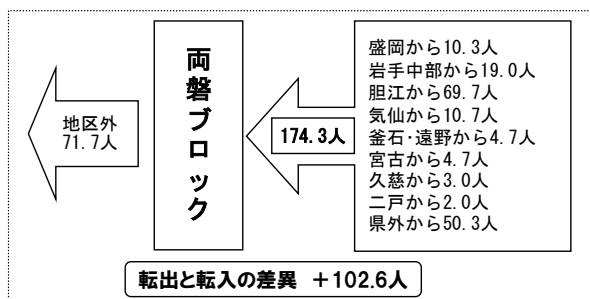
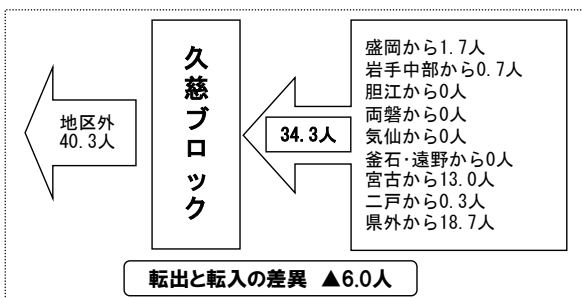
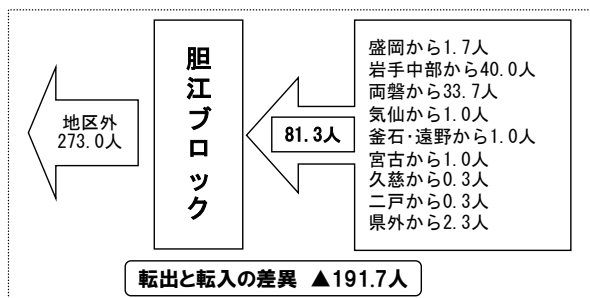
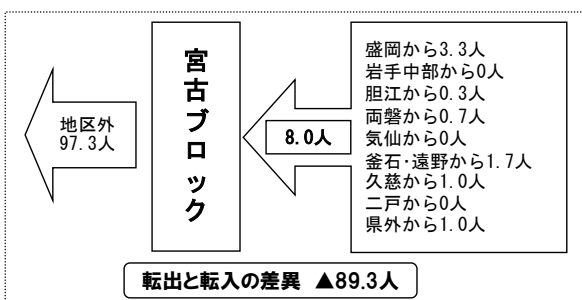
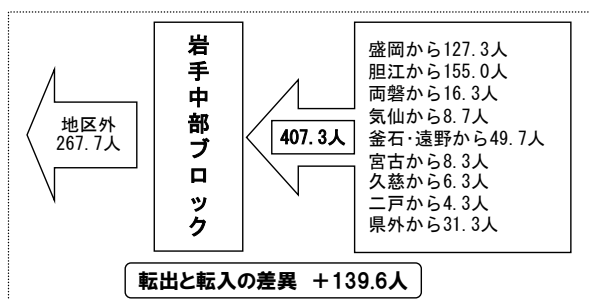
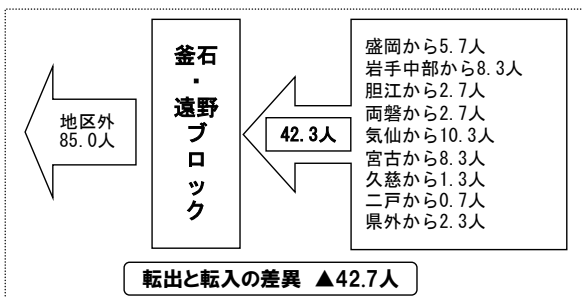
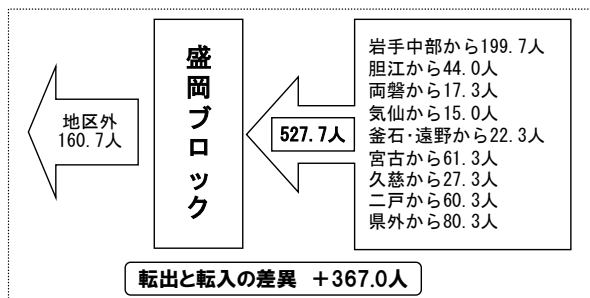


ブロック間交流の状況（3年間(H29・30・31年度)の平均）

※ 公立高校の全日制・定時制及び私立高校を対象（過年度卒を含む）

※ 転入 ⇒ 他のブロック及び県外からの転入者数

※ 転出 ⇒ 他のブロックへの転出者数（県外転出を除く）



中学生の進路希望等に関するアンケート結果

調査の概要

- (1) 調査対象 県内国公立中学校第3学年及び義務教育学校第9学年の生徒 (161校 11,074人)
 (参考) H27: 県内公立各中学校第3学年の1学級を抽出 165学級4,546人)
- (2) 調査時期 平成30年7月6日～8月3日

質問1 卒業後の進路をどのように考えていますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	10,468	3,937	1,779	1,111	1,112	474	548	615	476	416
① 全日制の公立高校		82.9%	84.4%	81.5%	76.0%	81.2%	86.5%	85.8%	85.5%	83.8%	84.9%
② 全日制の私立高校		9.1%	9.4%	10.3%	12.8%	9.9%	5.5%	6.6%	4.4%	5.5%	6.5%
③ 高等専門学校(高専)		2.7%	1.8%	2.6%	4.5%	3.6%	2.5%	2.4%	4.2%	2.9%	2.9%
④ 定時制の高校		0.6%	0.4%	0.4%	1.0%	0.5%	0.6%	0.9%	1.0%	1.9%	1.0%
⑤ 通信制の高校		0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%	0.4%	0.0%	0.2%	0.7%
⑥ 就職(含 家業)		0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%
⑦ その他(含 専門学校など)		0.3%	0.3%	0.1%	0.5%	0.2%	0.4%	0.0%	0.3%	1.1%	1.0%
⑧ まだわからない		4.1%	3.5%	4.7%	5.0%	4.0%	4.2%	3.8%	4.4%	4.6%	3.1%

質問2 進学先として質問1で答えた学校を希望する(考えた)最も大きな理由は何ですか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,967	3,774	1,683	1,046	1,059	449	526	585	446	399
① 学びたい学科があるから		17.7%	16.5%	20.4%	22.5%	19.2%	15.8%	10.8%	17.8%	15.2%	15.5%
② 部活動が盛んだから		15.1%	16.9%	16.2%	14.1%	12.8%	12.7%	14.8%	10.4%	13.7%	14.3%
③ 進学・就職に有利だと思うから		45.1%	46.5%	46.9%	45.0%	42.3%	42.5%	44.3%	46.7%	45.5%	32.1%
④ 地元の学校だから		9.3%	5.4%	5.8%	5.3%	12.6%	17.6%	20.9%	14.5%	16.6%	22.3%
⑤ 働きながら学べるから		0.5%	0.3%	0.2%	0.7%	0.8%	0.2%	1.0%	0.7%	1.1%	0.3%
⑥ 家族・親・先生がすすめてくれるから		4.0%	4.3%	3.3%	4.9%	4.8%	4.0%	2.9%	3.1%	2.2%	4.5%
⑦ 雰囲気やイメージがよいから		5.1%	6.5%	4.8%	4.6%	3.5%	4.5%	2.5%	3.1%	3.6%	8.0%
⑧ その他		3.2%	3.6%	2.4%	3.0%	4.1%	2.7%	2.9%	3.8%	2.0%	3.0%

質問3 進学先としてどの学科を希望しますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,987	3,780	1,687	1,047	1,063	452	526	585	448	399
① 普通科		56.0%	64.6%	48.2%	44.3%	42.8%	67.9%	61.2%	57.6%	53.1%	54.1%
② 理数科		3.1%	2.7%	2.4%	3.9%	7.0%	0.7%	5.9%	0.9%	0.7%	2.0%
③ 外国語に関する学系		1.1%	0.9%	2.9%	0.7%	0.6%	0.7%	0.6%	0.5%	0.4%	0.5%
④ 体育に関する学科・学系		2.5%	3.4%	4.4%	1.5%	1.1%	1.5%	1.5%	0.2%	1.1%	0.5%
⑤ 芸術に関する学系		1.0%	1.3%	0.6%	1.2%	0.7%	0.9%	0.6%	0.2%	0.9%	1.3%
⑥ 農業に関する学科		2.9%	2.8%	5.3%	1.8%	2.5%	2.2%	2.7%	1.0%	0.9%	3.8%
⑦ 工業に関する学科		10.4%	6.9%	11.9%	17.9%	14.3%	8.8%	11.2%	8.5%	7.4%	14.3%
⑧ 商業に関する学科		6.3%	7.5%	6.1%	6.9%	2.2%	4.4%	5.5%	16.1%	0.4%	0.5%
⑨ 水産に関する学科		0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	1.5%	0.0%	2.2%	1.8%	0.0%
⑩ 家庭に関する学科		2.7%	2.0%	4.0%	3.1%	2.8%	3.8%	1.1%	3.9%	2.5%	2.5%
⑪ 総合学科		6.9%	1.9%	8.1%	11.8%	18.8%	1.3%	2.3%	0.3%	19.2%	12.5%
⑫ どの学科でもよい		1.2%	1.1%	1.1%	1.7%	1.1%	0.7%	1.5%	1.9%	1.3%	0.8%
⑬ その他		1.4%	1.7%	0.7%	1.0%	1.9%	1.1%	1.0%	1.2%	2.0%	0.8%
⑭ わからない		4.2%	3.1%	4.4%	4.1%	4.2%	4.4%	4.9%	5.5%	8.3%	6.5%

質問4 進学したい学校に当てはまるのはどれですか。 ※質問3で「普通科・理数科」と答えた中で、県立高校を希望する生徒のみ回答(盛岡市立を除く)

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	4,912	2,093	723	388	434	272	306	296	207	193
① 学区内にある		79.2%	84.5%	71.6%	68.8%	81.3%	88.2%	81.7%	76.7%	70.0%	63.2%
② 学区外にある		14.0%	9.9%	22.1%	22.2%	13.8%	6.6%	12.4%	14.9%	15.5%	23.3%
③ その他		1.3%	1.0%	0.1%	1.3%	1.6%	0.7%	0.3%	0.3%	8.7%	3.6%
④ まだ決まっていない		5.5%	4.6%	6.1%	7.7%	3.2%	4.4%	5.6%	8.1%	5.8%	9.8%

質問5 高校の学びについて、あなたの考えに近いものはどれですか。 ※質問3で専門学科及び総合学科と答えた生徒のみ回答

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	2,848	778	570	421	412	97	118	184	143	125
① 専門分野を学びたい		58.2%	63.8%	57.0%	53.7%	51.9%	68.0%	53.4%	65.2%	51.7%	59.2%
② 専門分野以外も学びたい		14.8%	16.1%	16.1%	16.6%	10.9%	15.5%	14.4%	10.9%	9.8%	19.2%
③ 入学後に専門分野を決めてから学びたい		13.4%	8.9%	13.3%	15.2%	21.8%	6.2%	13.6%	11.4%	18.2%	11.2%
④ よくわからない		13.6%	11.3%	13.5%	14.5%	15.3%	10.3%	18.6%	12.5%	20.3%	10.4%

質問6 高校での部活動について、あなたの考え方に当てはまるものはどれですか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,941	3,763	1,674	1,040	1,063	451	524	583	446	397
① 入部したい部を決めている		48.6%	47.3%	51.9%	52.9%	48.1%	47.7%	47.7%	43.1%	43.9%	53.1%
② 入学後、多くの部の中から見学等を通して選びたい		42.4%	44.0%	39.1%	37.9%	42.8%	41.9%	44.1%	47.0%	46.9%	38.3%
③ ①、②のどちらでもない		3.1%	3.3%	3.5%	3.1%	2.9%	3.3%	2.1%	2.4%	3.4%	2.3%
④ わからない		5.9%	5.4%	5.6%	6.2%	6.2%	7.1%	6.1%	7.5%	5.8%	6.3%

質問7 通学の範囲をどの程度まで可能と考えていますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,955	3,767	1,679	1,042	1,061	452	524	584	448	398
① 主に徒歩、自転車等で通学可能な範囲まで		29.2%	34.0%	26.6%	24.7%	31.1%	21.5%	24.4%	24.5%	32.8%	19.6%
② 主にバス、列車で通学可能な範囲まで		43.2%	47.6%	48.4%	37.6%	38.5%	35.8%	45.6%	40.9%	28.8%	30.7%
③ 保護者が自家用車で送迎できる範囲まで		16.4%	9.5%	15.0%	26.0%	19.5%	30.5%	16.2%	16.8%	23.7%	29.9%
④ 自宅から通学できない範囲でもよい		5.0%	3.9%	4.7%	4.6%	5.7%	7.5%	6.3%	6.5%	5.8%	8.3%
⑤ その他		0.8%	0.7%	0.8%	1.2%	0.5%	0.7%	0.8%	1.4%	0.2%	1.5%
⑥ わからない		5.4%	4.4%	4.5%	6.0%	4.7%	4.0%	6.7%	9.9%	8.7%	10.1%

質問8 通学(片道)にかけてもよいと思う時間をどの程度までと考えますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,953	3,765	1,678	1,046	1,059	452	524	583	448	398
① 30分以内まで		28.1%	23.1%	27.6%	29.5%	29.8%	34.3%	33.8%	36.2%	37.7%	33.4%
② 1時間以内まで		51.8%	57.8%	51.8%	50.9%	47.4%	49.8%	43.7%	43.7%	42.6%	44.5%
③ 1時間30分以内まで		10.2%	11.8%	10.5%	9.5%	11.0%	6.0%	9.0%	7.0%	8.0%	8.0%
④ 2時間以内まで		2.3%	2.3%	2.3%	1.9%	3.3%	1.5%	2.3%	1.7%	2.9%	1.8%
⑤ その他		1.0%	0.7%	1.3%	1.0%	1.3%	1.8%	1.3%	0.3%	0.7%	2.0%
⑥ わからない		6.5%	4.4%	6.4%	7.3%	7.2%	6.6%	9.9%	11.0%	8.0%	10.3%

質問9 高校で勉強や部活動をする上で、どれくらいの規模(学級数)の高校がよいと思いますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,955	3,767	1,679	1,044	1,061	451	524	584	447	398
① 各学年、1学級(40人)規模の高校		9.1%	7.6%	8.9%	7.7%	8.6%	11.1%	11.6%	15.4%	12.1%	10.3%
② 各学年、2~3学級(80~120人)規模の高校		21.8%	14.6%	22.0%	24.9%	28.6%	25.5%	32.4%	26.7%	24.4%	34.4%
③ 各学年、4~6学級(160~240人)規模の高校		41.4%	40.8%	47.5%	45.6%	42.8%	44.8%	32.1%	31.2%	39.4%	32.9%
④ 各学年、7学級以上(280人以上)の規模の高校		8.1%	16.8%	3.7%	2.6%	1.7%	1.3%	2.5%	4.3%	1.6%	3.5%
⑤ その他		0.4%	0.5%	0.1%	0.5%	0.6%	0.2%	0.4%	0.7%	0.2%	1.3%
⑥ わからない		19.2%	19.7%	17.8%	18.8%	17.8%	17.1%	21.0%	21.7%	22.4%	17.6%

質問10 高校卒業後の進路についてどのように考えていますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,957	3,764	1,682	1,045	1,062	451	524	584	447	398
① 大学・短大へ進学したい		35.9%	42.3%	33.4%	32.0%	31.2%	35.7%	34.4%	29.3%	28.4%	30.7%
② 専門学校(専修学校、各種学校)へ進学したい		15.6%	14.2%	17.5%	15.2%	15.2%	14.9%	17.2%	15.8%	16.6%	21.6%
③ 進学したいと思っているが、大学か短大か専門学校かは未定である		13.7%	13.9%	12.4%	14.7%	15.3%	18.6%	8.0%	13.5%	13.0%	14.1%
④ 岩手県内で就職したい		7.5%	6.8%	9.6%	6.4%	6.0%	6.4%	10.9%	9.1%	7.6%	6.3%
⑤ 岩手県外で就職したい		2.5%	1.7%	1.9%	2.8%	4.7%	2.7%	2.7%	4.6%	2.5%	2.8%
⑥ 就職したいが、岩手県内か県外かは未定である		8.7%	6.3%	10.9%	9.8%	11.5%	5.5%	10.3%	9.6%	9.2%	11.1%
⑦ まだわからない		16.0%	14.8%	14.3%	19.1%	16.1%	16.2%	16.6%	18.2%	22.8%	13.6%

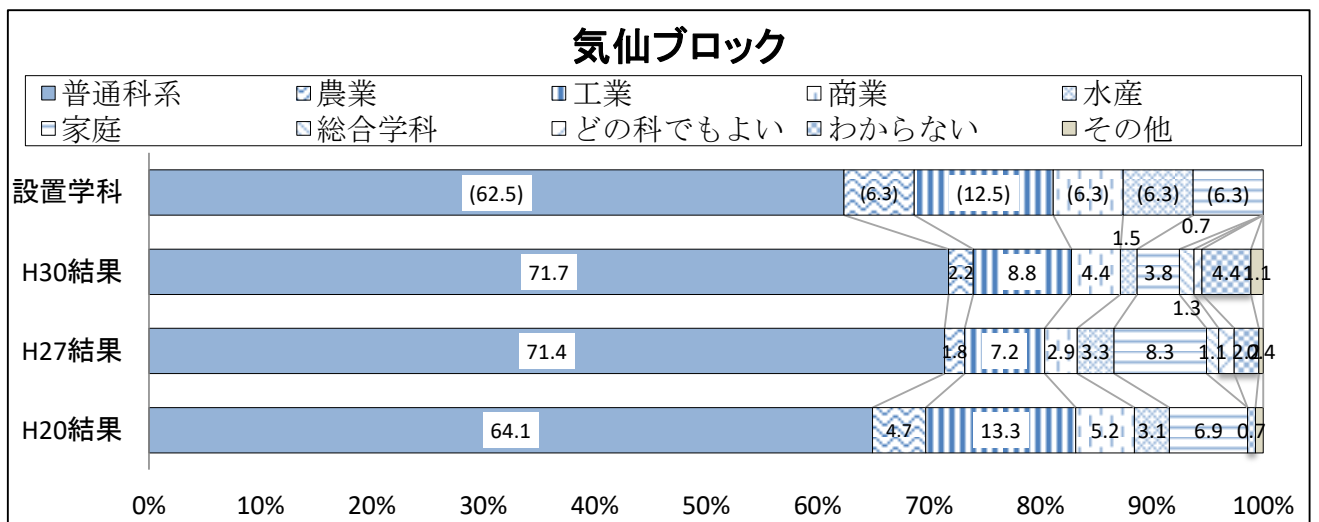
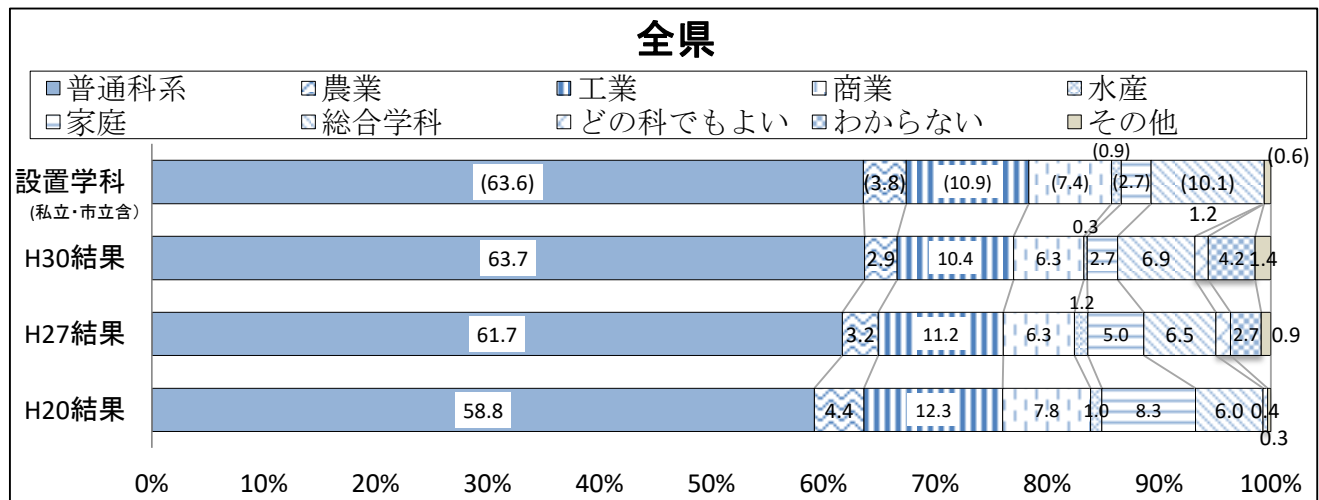
質問11 10年後どこに住んでいると思いますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	10,468	3,937	1,779	1,111	1,112	474	548	615	476	416
① 今住んでいる市町村に住んでいる		11.3%	12.9%	12.8%	9.1%	8.4%	13.1%	10.2%	10.2%	9.9%	7.7%
② 岩手県内に住んでいる		15.3%	14.2%	16.6%	16.3%	14.0%	11.6%	16.6%	18.2%	12.4%	22.8%
③ 岩手県外に住んでいる		26.5%	26.8%	25.0%	24.9%	30.3%	30.2%	25.7%	25.2%	23.9%	26.9%
④ まだわからない		46.8%	46.2%	45.6%	49.7%	47.3%	45.1%	47.4%	46.3%	53.8%	42.5%

質問3 進学先としてどの学科を希望しますか。

(H27 通学可能な範囲に次の学科がもし全てあるとしたら、進学先としてどの学科を希望しますか。)

選 択 肢	普通科系学科						職業系専門学科					総合学科	どの科でもよい	わからない	その他		
	普通科	理数科	外国語	体育	芸術	計	農業	工業	商業	水産	家庭					計	
全 県	設置学科 (私立・市立舎)	56.0%	1.5%	0.8%	1.2%	0.4%	59.8%	5.0%	13.9%	7.3%	1.2%	1.5%	29.0%	11.2%			0.0%
	H30結果	56.0%	3.1%	1.1%	2.5%	1.0%	63.7%	2.9%	10.4%	6.3%	0.3%	2.7%	22.6%	6.9%	1.2%	4.2%	1.4%
	H27結果	48.6%	5.7%	2.1%	2.7%	2.6%	61.7%	3.2%	11.2%	6.3%	1.2%	5.0%	26.9%	6.5%	1.3%	2.7%	0.9%
	H20結果	47.1%	4.6%	1.6%	3.0%	2.5%	58.8%	4.4%	12.3%	7.8%	1.0%	8.3%	33.8%	6.0%	0.4%	0.7%	0.3%
気仙 ブロッ ク	設置学科	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	62.5%	6.3%	12.5%	6.3%	6.3%	6.3%	37.5%	0.0%			0.0%
	H30結果	67.9%	0.7%	0.7%	1.5%	0.9%	71.7%	2.2%	8.8%	4.4%	1.5%	3.8%	20.7%	1.3%	0.7%	4.4%	1.1%
	H27結果	59.8%	5.1%	1.1%	2.9%	2.5%	71.4%	1.8%	7.2%	2.9%	3.3%	8.3%	23.6%	1.1%	1.4%	2.2%	0.4%
	H20結果	51.2%	5.5%	1.7%	3.6%	2.1%	64.1%	4.7%	13.3%	5.2%	3.1%	6.9%	33.2%	1.4%	0.0%	0.7%	0.7%

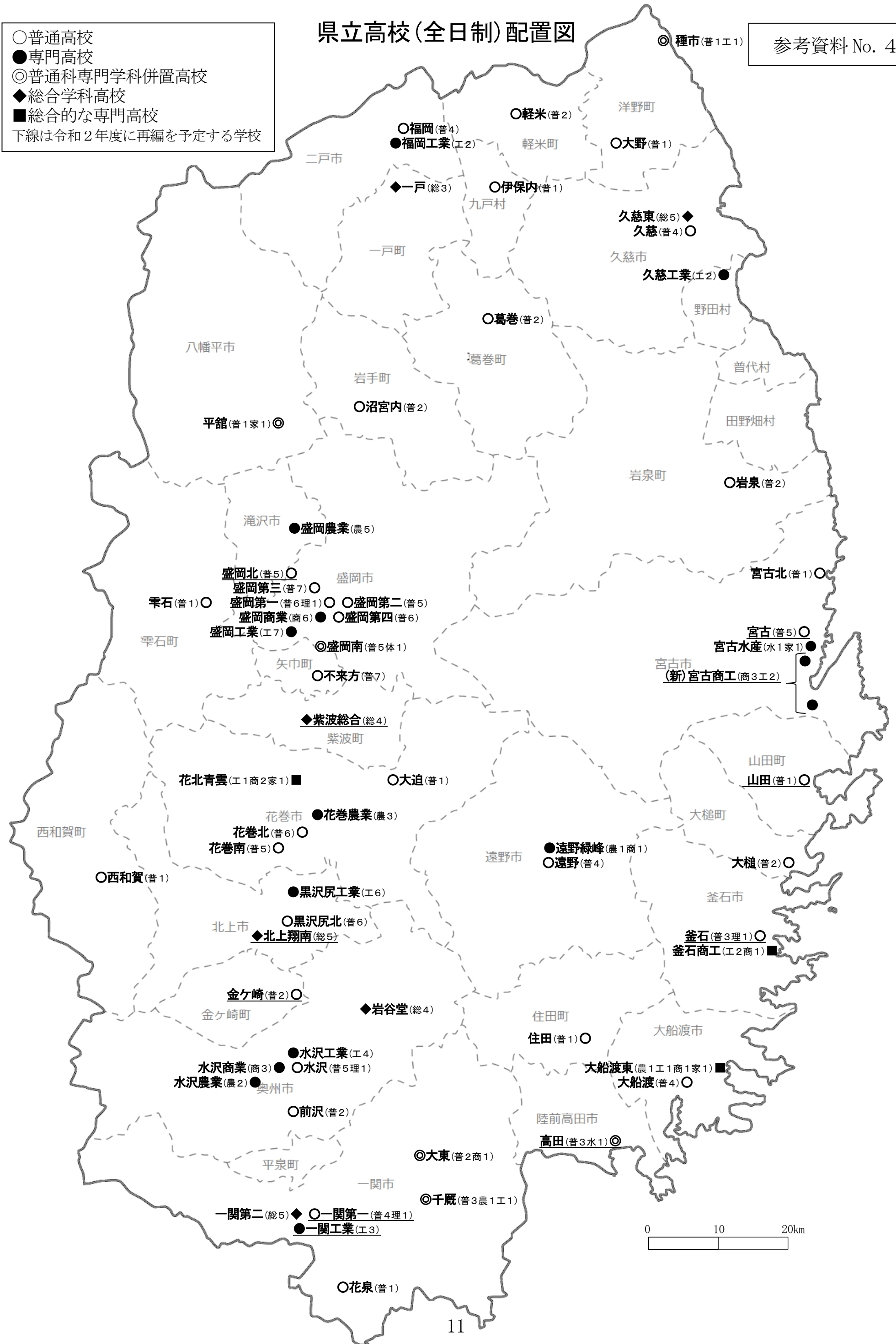


全県では、平成27年のアンケート結果より普通科系志望が若干増加している。設置学科割合（私立、盛岡市立高校を含む）は、中学生の希望する学科の割合とほぼ一致し、全県でみるとバランスの取れた学科配置となっている。
気仙ブロックでは、普通科系を希望する割合が、設置学科割合（私立、盛岡市立高校を含む）より高くなっている。

県立高校(全日制)配置図

参考資料 No. 4

- 普通高校
 - 専門高校
 - ◎普通科専門学科併置高校
 - ◆総合学科高校
 - 総合的な専門高校
- 下線は令和2年度に再編を予定する学校



地域検討会議（第2回）の概要

1 実施状況

ブロック名	ブロック内 市町村名	実施日時	会 場	出席者数（事務局を除く）				
				会 議 構成員	県議会 議 員	県 立 高校長	一 般 傍 聴	報 道 関 係
盛岡①	滝沢市、雫石町、 葛巻町、矢巾町	5月28日（火） 10:00～12:00	盛岡市総合福祉センター	15	5	6	3	2
盛岡②	盛岡市、八幡平市、 岩手町、紫波町	5月29日（水） 10:00～12:00	盛岡市総合福祉センター	16	5	12	3	2
岩手中部	花巻市、北上市、 西和賀町	5月20日（月） 15:00～17:00	花巻市交流会館	14	6	9	8	2
胆 江	奥州市、金ヶ崎町	5月27日（月） 10:00～12:00	奥州市水沢地区センター	11	3	8	1	2
両 磐	一関市、平泉町	5月31日（金） 14:00～16:00	一関地区合同庁舎	9	5	6	2	4
気 仙	大船渡市、陸前高 田市、住田町	5月20日（月） 9:30～11:30	大船渡地区合同庁舎	12	0	4	2	2
釜石・遠野	釜石市、遠野市、 大槌町	5月17日（金） 14:00～16:00	あえりあ遠野	13	2	5	6	1
宮 古	宮古市、山田町、 岩泉町、田野畑村	5月24日（金） 14:00～16:00	シートピアなあと	15	1	7	5	1
久 慈	久慈市、洋野町、 野田村、普代村	5月30日（木） 10:00～12:00	久慈地区合同庁舎	17	2	5	5	2
二 戸	二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町	5月14日（火） 10:00～12:00	一戸町コミュニティセンター	18	3	5	1	3
計				140	32	67	36	21
				296				

2 会議内容

(1) 平成31年度の入試状況について

平成31年度の入試状況について、資料に基づき事務局から説明を行った。

(2) 第1回地域検討会議における主な意見等

第1回地域検討会議（平成30年12月～平成31年2月にかけて開催）における主な意見等について、資料に基づき事務局から説明を行った。

(3) 後期計画の策定に向けた意見交換

下記をテーマとして設定し、本県の高等学校教育の現状や、地域ごとの高校のあり方について意見交換を行った。

＜意見交換テーマ＞

- ・小規模校のあり方について
- ・少人数学級について

3 主な意見等

- ・教育の機会の保障の観点から、小規模校は存続させる方向で検討を進めるべきである。
- ・小規模校の教育の質を維持するとともに、魅力化に向けた取組がさらに必要である。
- ・小規模校については、地域と連携した教育モデルの構築が必要である。
- ・その他、ICTを活用した遠隔教育の推進、少人数学級の導入に向けた国に対する教員定数制度の改善要望、小規模校の魅力化に向けた自治体の支援等、様々な意見があった。

地域検討会議（第2回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡① (滝沢市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	5月28日(火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月22日に行われた定例記者会見において、「高校再編については、入学者数等の数字ありきでの議論はしない。」との県教育長の発言を高く評価している。 ・ 少子化の進行により、盛岡市内の学校についても統合しなければ、周辺地区の小規模校の定員が充足しないのではないかと。 ・ 葛巻高校の学級減は延期となっているが、再編計画の対象となっている地域の住民は安心して生活することができない。各市町村に最低1校は2学級以上の高校を存続させるべきである。 ・ 再編計画は数字ありきと感じている。雫石高校は、伝統芸能等、地元で根差した高校なので存続させるべきである。 ・ 特に生徒数の減少が著しい地域の小規模校については、予算措置により少人数学級を導入し、生徒を呼び込む取組が必要である。 ・ 県教委には、市町村と連携しながら県外生徒の受入れについて進めていただきたい。
盛岡② (盛岡市、八幡平市、 岩手町、紫波町)	5月29日(水) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の認識として、地方力の向上のためには、小規模校を大切にすべきとの認識が高まっており、今後の学校教育においては、IoT技術を活用した「教育の質の保証と機会の保障」の両立に向けた取組が重要となる。 ・ 地元中学校の生徒は地元の高校に全員を入学させ、ITを活用した教育を推進する等、全国に先駆けた制度化が大切である。 ・ 1学級校の統合基準は、「20人以下の入学者数が2年連続」であるが、基準が定められていることで、入学者の確保に向けた努力ができる面もある。 ・ 総合学科高校の系列の見直しにより、学校自体の存在価値を見直す時期にきているのではないかと。 ・ 再編計画には、各市町村における地方創生の視点が盛り込まれているが、県教委は知事部局との連携をさらに図るべきである。 ・ 総合学科については現状維持ではなく、将来を見据えた視点での魅力づくりが必要である。 ・ 県がICT技術を導入する方針については支持するものであるが、教育の基本は「face to face」である。
岩手中部 (花巻市、北上市、 西和賀町)	5月20日(月) 15:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校は県教委として存続させることを前提とした上で、高校再編の方向性を明確に示すべきである。 ・ 小規模校の存続については、他県のように、地元からの入学者の割合が高いこと、学校活性化地域協議会の設置、多様な生徒の受入れ体制を整備していること等を考慮した基準も必要である。 ・ まちづくりや文化の継承には、地域の将来を担う人材育成が重要である。北上市内の中学校から、4割の生徒が地区外に進学している状況に驚いており、今後、県教委と情報交換を行い対応策を講じていく。 ・ 地域に貢献する高校こそ、地域に必要な高校であり、小規模校については地域と連携した教育モデルの構築が必要である。 ・ 少人数学級の導入により、特に専門学科においては専門性を高める教育が可能となる。現行制度の中でどのようなことができるのか、財政的な負担等について具体的に示しながら議論する必要がある。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
胆 江 (奥州市、 金ケ崎町)	5月27日(月) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> 岩手においては、教育の質の保証も大切であるが、地理的・経済的制約を受けている生徒でも希望する進路を実現できるよう、教育の機会の保障を重視すべきである。また、志願者数が少ないことを理由として、安易な統合を行うことは避け、地域の学校を残すための方策を自治体とともに考えることが重要である。 第1回地域検討会議において、会議構成員から出された様々な意見や提案に対しての具体的な方策案を県教委は示すべきである。その方策案について、さらに深い議論を展開していくことにより、より良い後期計画を策定できるものと考えている。 本県の現状として、少人数学級の導入を実現しなくても実質的な少人数教育が行われていることは承知した。少人数学級の導入によって教員数に不利益が生じないように、国に対する教員定数制度の改善要望を継続してほしい。
両 磐 (一関市、平泉町)	5月31日(金) 14:00~16:00	<ul style="list-style-type: none"> 農業・工業については特色ある学科を増やすなど、産業人材の育成のあり方についての方向性を示すべきである。 全県的に生徒数の減少が続くことから、高校再編は避けられないことであり、再編計画は計画通りに進めるべきである。 地域の子どもたちが将来的に地元に戻り、地域に貢献する人材として活躍するためには、地域の学校で地域の文化を学ぶ教育体制を確立し、推進することが大切である。 全国的にICTを活用した遠隔授業への取組が推進されており、このような取組は、中山間地等に設置された小規模校で学ぶ生徒の学力を保証するために有効である。 現行制度において本県の高校教育に少人数学級を導入することは難しいことは理解しているが、モデル的に少人数学級を導入し、先進的に制度改革に取り組むことがあってもよいのではないかと。
気 仙 (大船渡市、陸前高田市、住田町)	5月20日(月) 9:30~11:30	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に少子高齢化が継続することから、学校ではそのような社会の状況を伝える教育が必要である。小規模校は授業の開設科目等に制限があることから、中学生の高校選択にあたり、生徒・保護者に対する情報公開を積極的に行う必要がある。 大学入試制度の改革期でもあり、教育の質の保証はさらに重要となる。都市部と中山間地・沿岸部では教育環境が異なることから、知恵を出しながら岩手県としての取組を進めていく必要がある。 今後のさらなる少子化の中、学校規模の現状維持は難しいことから、小規模校については、生徒1人ひとりへの教育の質をどのように高めていくかが課題となる。 教育現場において教員数の確保は大切であり、現状の制度では少人数学級の導入が難しいことから、県教委の方針のとおり進めるべきである。 住田高校は、1学級を2学級編成とした少人数教育により進路実績を上げているので、教員が働きやすい環境となるよう、工夫をしながら少人数教育を進めていく必要がある。
釜石・遠野 (釜石市、遠野市、大槌町)	5月17日(金) 14:00~16:00	<ul style="list-style-type: none"> 地域にとって「必要な学校」は、様々な観点から地域にとって「貢献している学校」であると言い換えられる。高校生が地域と密接に関わりあうことで、地域の活性化と文化の継承に資している。 高校生は地域創生の新たなパートナーである。高校の統合は貴重な地域の担い手がなくなることに繋がるので避けなければならない。現在の仕組みで立ち行かなければ、岩手の現状に合致した新たな枠組による「岩手の独自モデル」を創造しなければならない。 全県的な少子化に伴う高校再編が進められていくことに、大きな危機感を持っている。町としても、多くの子どもたちに地元の高校を選んでもらえるよう、学校の魅力化等への支援を行っていく所存である。 高校において、より良い学びの環境づくりに向けて少人数学級の導入が必要である。高校標準法等の国の制度により教員定数が不足するのであれば、地域の人材等を活用していく方策についても検討してよいのではないかと。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>宮古 (宮古市、山田町、 岩泉町、田野畑村)</p>	<p>5月24日(金) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 山田高校の統合は、町の過疎化に直結することから反対である。地域の学校の存続に向けてどのように取り組んでいくか、今後のさらなる少子化の進行を踏まえ、高校再編は慎重に検討していく必要がある。 学校の魅力化に向けて教育活動の多様化を図るためには、一定規模が必要であるが、きめ細かな教育を受けられる小規模校のメリットも尊重し、近隣校との柔軟な連携等により解決を図るべきである。 いわて県民計画アクションプランにおける沿岸広域振興圏の取組方向として、地域経済を牽引する産業への就業者の定着を重点項目としているが、その役割を担うのが高校である。 田野畑村には高校が設置されていないことから、小中高の教育が継続するような体制を整備するべきである。 国に対する教員定数制度の改善要望を継続しているにもかかわらず、国が制度を改善する動きがないのであれば、要望の仕方を工夫していくべきではないか。
<p>久慈 (久慈市、洋野町、 野田村、普代村)</p>	<p>5月30日(木) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育の機会を保障する観点から、小規模校の統合を行うべきではない。 地域の活性化には小規模校の存在が大切であり、地元の産業等について理解をさせた上で、将来的に地域を担う人材となるよう、キャリア教育を充実させる必要である。 地域の高校を残し、地域社会で活躍する人材の育成が大切である。また、工業等の専門学科を卒業した生徒が大学に進学できる仕組みづくりも必要である。 学校は地域の人材を育成するために必要な存在である。地域との連携による地元就職の視点から、特に1学級校で学ぶ生徒に対し、インターンシップ等を通じて地域企業の魅力を伝えることが大切である。 久慈地区内の学校においても、ITを導入した学習ができるような教育環境の整備が必要である。 中学校では少人数学級が導入されているが、地区内の中学校には個別対応が必要な生徒が多く在籍しており、担任の負担を軽減させるために、各学校には支援員を導入して対応している状況である。
<p>二戸 (二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>5月14日(火) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県北部では、県北振興の施策を掲げて地方創生に取り組んでいることから、高校再編については、地域と一体的な町づくりの観点から検討する必要がある。 2013年から地区内の事業所への就労者が減少している。地域を支える産業が減少している状況を踏まえ、持続可能な社会を構築できる学校教育の環境整備を行うべきである。 1学級校は、教育の質の保証の観点から手詰まり感がある。中山間地は地域人材が不足しており、県教委には、学校教育に協力できる人材の確保に協力してほしい。(財政的な面については協力していきたい。) 県北・沿岸部の教育の質の保証に向けて、教育予算については充実した配分となるようお願いしたい。 少人数学級を導入することで教員数が確保できない現状の制度であれば、県費による加配措置をするべきである。 すでに実質的な少人数学級が多い状況にあるが、学級数を維持する観点から、あえて少人数学級の制度を導入するべきである。

地域検討会議（第1回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡① (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	1月7日(月) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校再編においては、高校が地域人材の育成を担っているという視点が重要である。 ・ 県外から生徒を受入れる体制を構築してほしい。 ・ 学級減に伴う加配など、県の支援策があれば地域が納得するのではないかと。 ・ 地域に高校が存在することは町づくりと直結している大事な要素であり、高校の存在は町の存続のキーである。 ・ 県外のみならず、外国からの生徒の受入れの視点も必要である。 ・ 1学級定員40人の基準を見直すべきである。 ・ 現在の再編計画は、様々な意見を集約して策定されたもので評価している。 ・ 紫波総合高校については、総合学科の学習内容を精査し、魅力ある学校づくりを進めていく必要がある。 ・ これから岩手を支える人材として、工業系人材の育成は必要である。
盛岡② (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	1月28日(月) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市部、沿岸部、中山間地それぞれでの高校の役割があり、多様な生徒への対応や地域産業の担い手育成という視点も高校再編においては大切である。 ・ 雫石町は交通の便を考えると都市部に分類されるかもしれないが、町の面積が約609km²と広く、雫石高校が無くなると高校への通学が困難になる地域もある。 ・ 現在のままでは近隣の市町村で生徒の奪い合いになるので、後期計画では県外からの生徒の受入れ制度について強く打ち出し、発展的な再編計画としてほしい。 ・ 県としても各市町村と協力しながら県外生徒の受入れ制度をつくり、地域の高校の存続について考えてほしい。 ・ 併設型の中高一貫教育校である一関第一高校附属中学校へは遠方から入学する生徒もいるため、後期計画では盛岡地域での中高一貫教育校の設置も検討すべきである。 ・ 県内の中学校卒業生数が減っていく中、矢巾町の生徒数は10年後も殆ど変わらない状況が続くため、地元の不來方高校については、存続をお願いしたい。 ・ それぞれの地域には様々な産業があり、企業等での体験学習や地域人材による講話等、地域との交流は学校の魅力づくりにつながると思う。
岩手中部 (花巻市、北上市、 西和賀町)	2月8日(金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期計画の策定に当たっては、進学実績のある高校の盛岡一極集中を見直すことも検討してもよいのではないかと。 ・ 後期計画は地域の学校の役割を重視しつつ、「岩手ならではの」特徴的な計画としてほしい。また、併設型中高一貫教育校の新設についても検討してもよいのではないかと。 ・ 高校は地域の「まちづくり」「ひとづくり」に欠かせない存在である。「高校の魅力づくり」について、市としても積極的に支援していきたいと考えている。 ・ 高校の募集停止・統合は、地域の賑わいを無くしてしまう可能性があり、結果として地域が衰退してしまうということも考えられることから慎重に検討する必要がある。 ・ 地域との連携・協働が進んでいる高校をやむを得ず再編する場合には、地域との連携を継続できる環境づくりについても配慮する必要がある。 ・ 後期計画の策定に当たっては、特別な支援を要する生徒への適切な指導や支援体制の充実の観点も大事にしながら検討する必要がある。 ・ 岩手県は広い県土を有することから、一律の基準によらない柔軟な対応も必要である。 ・ 後期計画においても、「特例校」の制度は堅持していただきたい。また、各地域の地方創生の取組の状況や社会情勢の変化等も踏まえた検討が必要である。 ・ ものづくり企業の進出による人口の社会増等、後期計画の策定に当たっては、このような社会情勢の変化も考慮した上で検討を進める必要があると考えている。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
胆 江 (奥州市、金ヶ崎町)	12月25日(火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校であっても地域には学校が必要であるという観点から、学級減はやむを得ないとしても、学校の統合は最低限にとどめ、地域の学校をどのように残していくべきかの視点で高校再編を考えるべきである。 ・ 地域から学校を無くすことは、地域として適切な教育環境をいかに維持するかの課題に大きく影響することである。 ・ 本県は東北を代表するものづくり先進県として職業人の育成に力を入れており、工業系の学校は維持しなければならない。 ・ 本県は広大な面積を有することから、本県独自の考え方による地域別の再編計画が必要である。地域ごとに望ましい学校規模の基準を設けるべきである。 ・ 学力の保証が重要視されていることもあり、さらに取組を推進するのであれば、再編計画において1学級の定員にも目を向けて教育環境の整備を進める必要がある。
両 磐 (一関市、平泉町)	1月18日(金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期計画の具体的な検討を進める過程で、募集定員や設置学科等について、県立高校と私立高校との調整が必要となる場面が出てくる可能性もあると思われる。今後、私立高校の状況も考慮に入れながら後期計画の策定を進めてほしい。 ・ 特別な支援を必要とする生徒数が増加していることから、高校においても、今まで以上に特別な支援を必要とする生徒への対応が必要になる。 ・ 後期計画策定に当たっては、少子化の進行や人口減少の状況、県の産業振興の方向性、産業界の動向・ニーズ及び地域の方々の意見を十分に聞きながら、県全体の状況をしっかりと把握した上で検討を進めてほしいと考えている。また、策定した計画は、確実に実行するという姿勢で臨んでいただきたい。 ・ 後期計画の策定においては、中山間地・沿岸部の1学級校のあり方についての検討及び通学支援策の検討が必要になるのではないか。
気 仙 (大船渡市、陸前高田市、住田町)	2月7日(木) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校教育においては、将来、地域医療を支えるような優秀な人材もしっかり育てていくという視点も必要である。 ・ 少子化が進む中においては、高校の統合等を検討することは、やむを得ないと思われるが、統合により公共交通機関での通学が困難になる場合には、通学支援策を検討することも必要である。 ・ 後期計画の策定に当たっては、これからの岩手を支える人材をどのように育てていくかという視点も必要である。 ・ 沿岸部、中山間地のそれぞれの地域の高校には役割があり、地域の将来を担う人材の育成の視点も高校再編を考える上で重要である。 ・ 専門高校と比べ普通高校は学びの特長を出しにくいように思う。学校ごとに学びに特色を持たせるなど、魅力ある学校づくりに取り組む必要がある。
釜石・遠野 (釜石市、遠野市、大槌町)	12月27日(木) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手大学釜石サテライト内に設置されている三陸水産研究センターや釜石・大槌地域産業育成センターと連携した高校のあり方を模索するべきである。 ・ 地域における高校の必要性や重要性を、十分理解した上で後期計画の策定を進めていただきたい。 ・ 後期計画の策定に当たっては、新たな設置基準による少人数学級の導入等についても検討し、全国的に見ても特徴的な岩手型の再編計画を策定してはいかがかと考える。 ・ 小規模校の中には、今後も存続させる必要のある学校が多くあると考えている。子ども達、それを支える地域の方々を地域との連携による教育の充実の中にどのように位置づけるのかについて考える必要がある。夢のある計画を示していただきたい。 ・ 遠野高校では地域課題の発見、解決に向けた取組を行っており、地域と密着した教育を進めていくことが、これからの中山間地・沿岸部の教育のあり方であると考えている。 ・ 県立高校が市町村と連携を強化し、魅力化を図るということが必要である。 ・ 小規模校においてもコース制を取り入れるなどして、様々な産業に対応する学びの機会を設けることが必要であると考えている。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>宮古 (宮古市、山田町、 岩泉町、田野畑村)</p>	<p>1月15日(火) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は生徒確保に向けた自治体間の競争が加速していくと思われる。学校の魅力を高めることで地域外から生徒を集める視点が大切になる。 ・ 宮古管内には、より高いレベルで部活動や勉学に取り組みたいと考え、管外の高校を希望する志の高い生徒もいることから、高校の選択肢を大切にした後期計画が必要である。 ・ 地域の学校を統合せずに残す方策として、都市部の生徒数が多い学校の学級数を減じることも考えられるのではないかとと思われる。 ・ 後期計画の策定に当たっては高校教育と町の教育が力を合わせ、子どもたちの地域産業に対する理解や地元に対する意識・愛着を高めていく仕組みづくりも必要であるという視点で検討をしなければならないと感じている。 ・ 県教委は、各地域の実情に配慮し、10年間の再編計画を策定していると認識している。後期計画の策定に向けた検討に当たっても、地域で学ぶ教育環境をしっかり守るという再編計画の基本的なスタンスを変えない姿勢であることを望む。 ・ 後期計画を策定するに当たり、小規模校については、学級数を維持することで教員数を確保できるよう、30～35人学級を実現させてほしい。 ・ 各市町村においては、人口ビジョンや地域戦略を策定して取り組んでいる。岩手県で生活したいと思われるよう、教育に対する取組が積極的な県であることを打ち出すという視点でも高校再編を進めてほしい。 ・ 宮古地区にとって水産、工業、商業に関する専門学科は必要であり、入学者が定員を下回っても存続させながら、今後の専門教育のあり方について考えてほしい。
<p>久慈 (久慈市、洋野町、 普代村、野田村)</p>	<p>2月4日(月) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒数の減少に伴い学級数を減じていくことについては理解しているところではあるが、これにより配置される教員数も減少することから、今後、生徒の学力をどのように維持させていくのが重要になってくると考えている。 ・ 再編計画においては、望ましい学校規模を原則4～6学級としているが、これだけ人口減が進行している社会情勢の中にあっても小規模校を統合することにより4～6学級を確保する必要があるのか疑問を感じている。 ・ 中山間地では、通学条件等の面で教育を受ける機会の保障が難しいことから、高校再編においては都市部と同様の視点で考えるのではなく、地理的な条件も踏まえた、柔軟な考え方で検討するべきである。 ・ 全国的に人口減少が進行している中、子どもの数のみで学校再編を考えるのではなく、子どもたちにとって今後の学校教育に何が必要であるかという視点で、これまでの考え方に捉われない高校再編を行うべきである。 ・ 生徒にとっては高校の選択肢は多い方がよいので、統合して学校や学科を減らすのではなく、存続させる方向性で検討してほしい。
<p>二戸 (二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>12月26日(水) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口が減少する中であって、学校の統合は避けられないと考えているが、「地域の将来を担う人材育成」を進める地域の取組や特殊事情等も考慮した上で進めてほしい。 ・ 二戸地区全体として「普通高校のあり方」及び「専門高校・総合学科高校のあり方」を考えていかなければならない時期に来ているのではないかと。 ・ 学級減や統合等の議論は、時の流れとしてやむを得ない部分もあるが、地域を担う人材の育成等、様々な観点から高校再編の検討を行っていただきたい。 ・ 学校間連携の仕組みを工夫する等の具体的な施策の実施により、小規模校においてもその魅力が損なわれないよう、県の積極的な関与をお願いしたい。 ・ 後期計画の策定の際には、地域の中で小規模校が存続でき、かつ、生徒が満足した高校生活を送れるような環境・条件づくりについても検討を進めていただきたい。 ・ 子どもたちの進路目標の多様化も踏まえ、二戸地区としてどのような教育体系(学校・学科の配置)が必要なのか、改めて検討する必要がある。 ・ 地元自治体や企業が学校の魅力づくり等を支援する取組が進んでいることから、再編計画を早急に出すのではなく、取組の成果を見守ることも選択肢のひとつではないかと。

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第2回）気仙ブロック 会議録

【気仙ブロック：大船渡市、陸前高田市、住田町】

- 日 時：令和元年5月20日（月）9時30分～11時30分
- 場 所：大船渡地区合同庁舎 4階 大会議室
- 出席者
 - ① 会議構成員
 - 大船渡市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）
 - 陸前高田市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）
 - 住田町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）
 - ② 事務局（県教育委員会）
 - 沿岸南部教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）
 - 県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）
- 傍聴者：一般2人、報道2人
- 会議の概要
 - ◆ 議題及び報告事項
 - 1 平成31年度の入試状況について
 - 【県教委】
 - ・ 資料No. 1-1「平成31年度の入試状況について」、資料No. 1-2「平成31年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等一覧表（全日制）」に基づき説明。
 - 2 第1回地域検討会議における主な意見等
 - 【県教委】
 - ・ 資料No. 2「第1回地域検討会議における主な意見等」に基づき説明。
 - 【戸田 大船渡市長】
 - ・ 資料No. 1-1「平成31年度の入試状況について」では、中学校卒業生数と募集定員を比較すると募集定員が少ないが、この理由は何か。
 - 【県教委】
 - ・ 資料の数値は県立高校の募集定員のみであり、私立高校と盛岡市立高校は含まれていないもの。高校進学率は99.5%を超える状況であり、県全体で中学校卒業生数を下回る募集定員としているものではない。
 - 3 後期計画策定に向けた意見交換

<意見交換テーマ>

 - (1) 小規模校のあり方について
 - (2) 少人数学級について

 - (1) 小規模校のあり方についての御意見

【県教委】

- ・ まず、小規模校のあり方について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料 No. 3「新たな県立高等学校再編計画の概要」、資料 No. 4「小規模校のあり方について」に基づき説明。

【戸田 大船渡市長】

- ・ 小規模校のあり方については非常に難しい課題である。気仙ブロックの総合格者数が平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間で 550 人から 424 人に減少しており、大船渡市の出生数データを見ても、急激に出生数が減少した世代であり、13 頁の数値と一致している。大船渡市の出生数は、今後 10 年間は緩やかに減少しながら推移し、その後、減少に転ずる見込みである。
- ・ 現在の 1 学級から 3 学級の高校が、10 年後、どのような状況になっていくのか、市町としても覚悟を決めていかなければならない。
- ・ 生徒、保護者の多様な進路希望がある中、小規模校では授業の開設科目に制限があることから、生徒の進路希望を叶えるため積極的に情報を公開し、高校の選択がきちんとなされることが重要である。その上で、人口減少や高齢化が進行する社会状況を生徒に伝えていく教育も必要である。

【門田 大船渡市 P T A 連合会】

- ・ 気仙地区では住田高校が 1 学級校に該当するが、県教委としては、他の地区と比較して、統合しやすい地域であると考えているのか。

【県教委】

- ・ 気仙地区については、現在、前期計画では 3 校（大船渡高校、大船渡東高校、高田高校）の学級減を計画しており、そのうち 2 校について学級減を進めてきたところ。後期計画は、今後策定するものであり、現在のところ具体的な統合の対象校を考えてはいない。
- ・ 小規模校については、地域にとって必要とされる学校について、課題を解消しつつ残していく方向性もあれば、教育の質の保証の観点から統合していくことも選択肢となる。これはどの地区でも同様である。

【伊東 陸前高田商工会会長】

- ・ 地域の将来を担う人材を育成するのが地域の高校であり、また、部活動や地域の行事を通じて地域の元気・活気の源となっている。
- ・ 生徒数の減少等、様々な課題が出てきており、地域全体の問題として捉えていく必要がある。子供や孫など就学中の生徒がいない世帯については、地域の高校の状況や、生徒数が減少している現状に関心が無くなっており、地域の住民に危機感を持ってもらうことが必要である。各種の団体と連携しながら、町全体で課題解決への取組みを行い、地域が一体となり盛り上げていくことが必要である。

【松高 気仙地区小・中学校長協議会会長】

- ・ 気仙地区には普通科が 3 校（大船渡高校、高田高校、住田高校）あり、第 1 回地域検討会議

における中学生アンケート結果によれば、県内で普通科を希望する生徒は 56.0%であるのに対し、気仙地区は 67.9%となっており、普通科志望の生徒が多い結果となっている。

- ・ 中学校の段階で、将来の職業を決めている生徒は少数であり、普通科に入学してから将来の選択肢を考える生徒が多い。
- ・ 気仙地区にある 3 校の普通科は、それぞれ役割を担っていると感じており、住田高校へ進学する生徒は町からの支援もあり、メリットを感じている。他の地区とは異なり、生徒が目的を持って進学している状況であり、このままの体制を継続していただきたい。

【菊池 住田町教育委員会教育長】

- ・ 他県では、地域との十分な意見交換が行われないまま高校再編計画が示されることもある。岩手県は非常に丁寧に意見を聞きながら、時間をかけて進めていることを高く評価する。
- ・ 気仙地区の 4 つの高校（大船渡高校、大船渡東高校、高田高校、住田高校）は特色が異なり、それぞれが他校にはない良さを持っており、バランスを保ちながら各校の役割を果たしている。
- ・ 住田高校は 1 学級校としての役割を果たしつつ、1 学級を 2 つに編成することで、きめ細かな指導を実現しており、教員と生徒との距離感も近い。町との関係も良好であり、存続に向けた支援を続けたいと考える。
- ・ 現在、小中学校は 35 人学級となっており、高校にも導入すれば定数のメリットがあると考ええる。

【千葉 住田町商工会副会長】

- ・ 地域の現状を踏まえると、住田高校は地域の特色を活かした住田町らしい高校として存続させていく必要があることから、町の特色をさらに生徒に伝えていきたいと考える。
- ・ 高校の再編により、経済的な理由から高校に通学できない生徒が将来的にも生じないようにしていただきたい。

【金 陸前高田市教育委員会教育長】

- ・ 生徒数の減少による 1 学級校の存続については、全国的に共通する課題である。
- ・ 課題の視点が学校規模となっているが、これからは、少子高齢化が進み、一人ひとりが質を高めなければならない時代に突入していく。質を変えていくために知恵や IT 等を活用しなければ社会が成り立たなくなる。
- ・ 学校規模も大事な視点であるが、小規模校でも地域の実情に合わせた質の向上を色濃く打ち出し、生徒一人ひとりへの教育の質をどのように高めていくか、違う視点で膨らませていくことが必要である。

【戸田 大船渡市長】

- ・ 労働人口の減少と、高齢者化社会の中で、行政サービスの維持のため 1 人あたりの生産性の向上が必要となることから、そのような時代を背負う今の生徒達には、生産性の向上に向けた教育が大切になる。

【神田 住田町長】

- ・ 生徒数の減少が進み、数の原理となるのは小中学校についても同じ状況であるが、子供達への教育はどうあるべきかの視点を踏まえて考えていかなければならない。
- ・ 生徒の学習に対する希望や将来の希望を叶える環境づくりを進める課題がある中で、工夫す

れば解決できる手法もあるのではないかと。大学入試に関わる制度改正等、社会の流れに合致した教育のあり方が必要である。

- ・ 教育の質に関わる都市部と地方との格差や、教育の質も異なることから、地方における教育の質の維持について、岩手県全体として知恵を出しながら取り組んでいくことが重要と考える。

【小松 大船渡市教育委員会教育長】

- ・ 気仙は1つという言葉があり、それぞれの学校において特色ある学校経営を進めているが、中学生は自分の進路目標を、私立高校も含めた地区外の学校のも選択肢を広げている現状がある。
- ・ 地区内の生徒が減少する中で、今後の5年間ではなく、10年後を見据えた検討も進めていかなければならないのではないかと。

【県教委】

- ・ 各高校において、地域の現状を把握した上で、地域課題の解決に向けた探究活動を取り入れる学習活動を推進している。
- ・ 教育の質を高める手法として、一定の学校規模を設けることで教科の科目や部活動などの選択の幅を広げることができるが、小規模校については、ICTの活用や教員の学校兼務により教育の質を高める取組を行っている。
- ・ 後期計画は令和7年度までの5年間の計画となるが、その先も見据えた長期的な計画も必要と考える。

(2) 少人数学級についての御意見

【県教委】

- ・ 次に、少人数学級について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料 No. 5 「少人数学級について」に基づき説明。

【伊東 陸前高田商工会会長】

- ・ 少人数学級の導入を望む声があり、全国でも約半数の都道府県が取り入れている状況であるが、この制度の導入により、教員の数が減るというジレンマが生じてくる。
- ・ 制度そのものの見直しをさらに強く要望していく必要がある。県単独ではなく、他県との連携を図り、地域住民の関心を集めながら強く制度改正を要望していくことが大切である。

【小松 大船渡市教育委員会教育長】

- ・ 現在、小規模校の1学級当たりの在籍生徒数については、実質的には少人数学級となっている実情を踏まえ、教員定数は現状のままとし、それぞれの学校で創意工夫を図った少人数教育に取り組むことで、生徒にとってきめ細かな指導が可能となる。

【門田 大船渡市PTA連合会】

- ・ 県教委としては、本県における少人数学級の導入をどのように考えているか。

【県教委】

- ・ 現行の制度の下では、少人数学級を導入した場合のデメリットが大きいと考えている。ただ、教員定数改善については、これまでも国への制度改善要望は行っている。
- ・ 他県の状況としては、専門学科では、少人数学級を導入している例があり、実習などのきめ細かな指導が必要な教科についてはメリットがある。また、普通科では学級減を緩やかに進める手法として導入している例はある。

【伊東 陸前高田商工会会長】

- ・ 教員数の関係以外にもデメリットがあるのか伺いたい。

【県教委】

- ・ 現行制度のままであれば、1学級の定員を40人とする方が教員数を維持できることから、より充実した教育ができると考える。
- ・ 少人数教育については、様々な工夫により各高校で取り組まれている。制度が改正されれば、それに対応した学級編制等となることは十分考えられる。

【松高 気仙地区小・中学校長協議会会長】

- ・ 中学校においても、授業以外の部活動や教育相談など様々な業務に対応するためには、教員数が必要であり、教員数を維持することが現場としてもやりやすいと考える。

【神田 住田町長】

- ・ 教員数の確保は大事であり、少人数学級の導入に向けては県教委の考えのとおり進めるべき。
- ・ 住田高校は、2学級編成を導入した少人数教育により実績を上げてきている。教員が働きやすい環境となるよう工夫しながら進めていきたいと考える。

【県教委】

- ・ 少人数教育と少人数学級は相反するものではない。少人数教育には様々な形態があり、少人数学級はその1つであると考えていただきたい。
- ・ 高校標準法による教員定数は募集定員で決定され、生徒数で決定される義務教育とは異なるもの。岩手県以外の県でも国に対する定数改善要望は行っているが、十数年改善されていない。

【門田 大船渡市PTA連合会】

- ・ 小規模校はそれだけでデメリットとなるのか。また、住田高校が1学級を2学級に分けている理由はなぜか。

【県教委】

- ・ 住田高校は割り当てられた教員数で工夫により授業等を行っているもの。

6 その他

【泉田 住田町産業関係者代表】

- ・ 沿岸部と内陸部の教育格差の是正について、県としてどのような目標を掲げて取り組んでいるのか。

【県教委】

- ・ 沿岸部、内陸部を問わず、必要な学校規模等の工夫を考えており、小規模校についても I C T の活用や教員の兼務等に取り組んでいきたいと考えている。また、県としての学力向上に向けた取組については、地域を問わず希望に応じて参加することが可能となっており、こうした機会を整えていくことを考えている。

【県教委】

- ・ 資料 No. 3 で県立高校の再編計画の概要を示しているが、再編計画は平成 28 年度からの 10 年間の計画として策定しているものであり、前期計画の中で気仙地区においては大船渡高校、大船渡東高校の学級減を行ったところ。令和 3 年度から後期計画を策定するため皆様から意見をいただいている。
- ・ 再編計画は教育の質の保証と教育の機会の保障を柱としており、その考えを基本として推進している。教育に対する県と地域の考え方は共通であることから、2つの柱の両方の実現に向けて、共に考えていかなければならないことと捉えている。
- ・ 現実問題とすれば、決められた法律、規則など制約がある中で、教育の質の保証と教育の機会の保障をすべてパーフェクトに両立させることには難しい面があるが、この2つを重視しながら再編計画を進めていく考えである。後期計画の策定に向けては、各地域の皆様の様々な知恵や御意見をいただきながら進めていきたい。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第2回)【気仙ブロック】

出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	大船渡市	戸田 公明	大船渡市長	
2		新沼 邦夫	大船渡商工会議所 専務理事	
3		門田 晃明	大船渡市PTA連合会	
4		小松 伸也	大船渡市教育委員会 教育長	
5	陸前高田市	伊東 孝	陸前高田商工会 会長	
6		金 賢治	陸前高田市教育委員会 教育長	
7	住田町	神田 謙一	住田町長	
8		泉田 浩喜	住田町産業関係者代表(畜産)	
9		千葉 和三	住田町商工会 副会長	
10		小山 富孝	住田町PTA連合会 会長	
11		菊池 宏	住田町教育委員会 教育長	
12	地区中学校長代表	松 高正俊	気仙地区小・中学校長会協議会 会長(大船渡市立第一中学校長)	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
13	県立高等学校	継枝 斉	高田高等学校 副校長	
14		吉田 祥	大船渡高等学校長	
15		大木 由里	大船渡東高等学校 副校長	
16		菅野 誠二	住田高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
17	県教育委員会 事務局等	加藤 暢之	沿岸南部教育事務所長	
18		梅津 久仁宏	教育次長	
19		木村 克則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
20		里舘 文彦	学校教育課首席指導主事兼高校教育課長	
21		藤澤 良志	学校調整課特命参事兼高校改革課長	
22		谷地 信治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
23		市丸 成彦	学校調整課高校改革担当指導主事	
24		小野寺 一浩	学校調整課高校改革担当指導主事	
25		女鹿 光介	学校調整課高校改革担当主査	